

博士論文（要約）

論文題目 一世紀から六世紀における西南中国
地域社会史の研究

氏 名 新津 健一郎

目次

序 論

西南中国をめぐる研究の現状と課題	…… (3)
第一節 「西南中国」とはなにか (3)	
第二節 西南中国における歴史展開とその論点 (29)	
第三節 本論文の課題と構成 (51)	

第一部

第 一 章

後漢四川地域における地方行政と地域文化	
——成都東御街後漢碑からみる郡学と地域社会	…… (59)
はじめに (59)	
第一節 後漢時代史と四川地域 (61)	
第二節 成都東御街漢碑の基礎的分析 (66)	
第三節 蜀郡郡学からみる地方行政と地域社会 (73)	
第四節 後漢四川における地域文化 (79)	
おわりに (82)	

第 二 章

益州劉二牧政権からみる漢末州牧の地方統治	…… (103)
はじめに (103)	
第一節 劉二牧政権の概要と権力構造	
——とくに行政機構との関連について (106)	
第二節 劉二牧政権と行政機構 (114)	
第三節 州属吏と軍事機構からみる州牧の地方統治 (120)	
おわりに (124)	

第 三 章

三国以後の四川地域における社会と文化の変容	…… (133)
はじめに (133)	
第一節 両晋・成漢政権と四川地域 (137)	
第二節 隗先生銘からみる四川地域と大姓 (151)	

第三節 地域文化と地域社会の変容 (164)

おわりに (172)

第二部

第 四 章

「越」的世界の分極

——二・三世紀の交州地域 …… (177)

はじめに (177)

第一節 二・三世紀の交州に関する史料と研究状況 (180)

第二節 士氏政権再考 (186)

第三節 孫呉政権の交州統治 (196)

おわりに (205)

第 五 章

ベトナム・バクニン省所在陶列侯碑からみる交州地域社会 …… (207)

はじめに (207)

第一節 陶列侯碑の概要と問題点 (208)

第二節 陶列侯碑と陶璜の治所 (214)

第三節 陶列侯碑と四世紀初の交州地域社会 (222)

おわりに (230)

第 六 章

爨宝子碑からみる五世紀初頭の寧州地域社会 …… (237)

はじめに (237)

第一節 爨宝子碑の基礎的考察 (241)

第二節 東晋時代の寧州統治 (252)

第三節 寧州地域社会と爨宝子碑 (260)

おわりに (264)

第 七 章

爨公墓誌からみる雲南地域社会の変容 …… (267)

はじめに (267)

第一節 爨公墓誌の基礎情報と史料的意义 (269)

第二節 開元年間以前における西南蛮首領の封爵とその背景 (277)

第三節 並立の仮構	
——八世紀中期における雲南地域の変動と唐帝国	(288)
補節 南詔の冊封復帰をめぐって	
——八世紀末における秩序の転換	(295)
おわりに	(303)
結 論	
西南中国地域社会史の意義と展望	…… (307)
第一節 検討結果の整理	(307)
第二節 西南中国の歴史的意義	(312)
第三節 課題と展望	(319)
参考文献一覧	…… (327)
付記	…… (348)

本文

博士論文本文は5年以内に単行本として出版の予定。

参考文献一覧

(典籍・史料集)

[漢籍] 四部分類順・校訂本等は原書に併記

司馬遷撰『史記』修訂本、中華書局、二〇一四年。

班固撰『漢書』中華書局、一九六二年。

范曄撰『後漢書』中華書局、一九六五年。

陳寿撰『三国志』中華書局、一九五九年。

盧弼集解『三国志集解』上海古籍出版社、二〇一二年。

房玄齡ほか撰『晋書』中華書局、一九七四年。

沈約撰『宋書』修訂本、中華書局、二〇一八年。

蕭子顯撰『南齊書』中華書局、一九七二年。

姚思廉撰『梁書』中華書局、一九七三年。

姚思廉撰『陳書』中華書局、一九七二年。

魏収撰『魏書』中華書局、一九七四年。

令狐德棻ほか撰『周書』中華書局、一九七一年。

魏徵ほか撰『隋書』中華書局、一九七三年。

李延寿撰『南史』中華書局、一九七五年。

劉昫ほか撰『旧唐書』中華書局、一九七五年。

歐陽脩ほか撰『新唐書』中華書局、一九七五年。

脱脱ほか撰『宋史』中華書局、一九八五年。

王鳴盛『十七史商榷』大化書局、一九七七年。

司馬光撰『資治通鑑』中華書局、一九五六年。

郭允蹈撰、趙炳清校注『蜀鑑』国家図書館出版社、二〇一〇年。

崔鴻撰、湯球輯補、聶澂萌ほか校『十六国春秋輯補』中華書局、二〇二〇年。

常璩撰『華陽国志』商務印書館・新華書店、一九三八年。

劉琳校注『華陽国志校注』巴蜀書社、一九八四年。

任乃強校補図注『華陽国志校補図注』上海古籍出版社、一九八七年。

谷口房男ほか訳注「華陽国志訳注稿 一 - 一四」『アジア・アフリカ文化研究所研究年報』
一九七五 - 一九九八年。

劉琳校注『華陽国志新校注』四川大学出版社、二〇一五年。

樊綽撰、向達校注『蛮書校注』中華書局、二〇一八年。

趙呂甫校釈『雲南志校釈』社会科学出版社、一九八五年。

Gordon Luce trans., Oey Giok Po ed., *The Man Shu: Book of the Southern Barbarians*. Department
of Far Eastern Studies, Cornell University, 1961.

林宝撰、郁賢皓・陶敏整理『元和姓纂』中華書局、一九九四年。

陶敏著、李德輝整理『元和姓纂新校証』遼海出版社、二〇一五年。

李吉甫撰『元和郡縣圖志』中華書局、一九八三年。

王謨輯『漢唐地理書鈔』中華書局、一九六一年。

孫琪華輯注、蒙默・黎明春整理『益州記輯注及校勘』巴蜀書社、二〇一五年。

駱偉・駱廷輯佚『嶺南古代方志輯佚』廣東人民出版社、二〇〇二年。

酈道元撰『合校水經注』中華書局、二〇〇九年。

陳橋驛校証『水經注校証』中華書局、二〇〇七年。

楊守敬ほか撰『水經注圖』中華書局、二〇〇九年。

洪适撰『隸積・隸統』中華書局、二〇一二年。

歐陽詢撰『藝文類聚』上海古籍出版社、一九八二年。

釋道宣撰『廣弘明集』『大正新脩大藏經』大正一切經刊行會、一九二四 - 一九三四年、所収。

牧田諦亮編『弘明集研究 訳注篇 上』、京都大学人文科学研究所、一九七五年。

許敬宗ほか撰『文館詞林』古典研究会、一九六九年。

羅国威整理『日藏弘仁本文館詞林校証』中華書局、二〇〇一年。

張九齡撰『曲江集』台湾中華書局、一九六五年。

熊飛校注『張九齡集校注』中華書局、二〇〇八年。

黎僖ほか撰（陳荊和編校）『大越史記全書 校合本』東京大学東洋文化研究所附属東洋学文献センター、一九八四 - 一九八六年。

黎崱撰『安南志略 An Nam Chí Lược』Viện Đại Học Huế, 1961.

〔電子資料〕

京都大学人文科学研究所所蔵 石刻拓本資料。

URL <http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/db-machine/imgsrv/takuhon/>

毛遠明『漢魏六朝碑刻數據庫』中華書局（電子出版）、二〇一八年。

URL <http://inscription.ancientbooks.cn/docShike/shikeSublibIndex.aspx?libId=4>

〔史料集〕

方国瑜主編『雲南史料叢刊』雲南大学出版社。

毛遠明校注『漢魏六朝碑刻校注』線裝書局。

永田英正編『漢代石刻集成』同朋舎出版。

徐玉立主編『漢碑全集』河南美術出版社。

四川省文物管理局編『四川文物志』巴蜀書社。

新文豐出版公司編輯部編『石刻史料新編』新文豐出版公司。

中国画像石全集編輯委員会『中国画像石全集』山東美術出版社・河南美術出版社。

国家文物局主編『中国文物地圖集』文物出版社・中国地圖出版社等。

譚其驤主編『中国歴史地図集』地図出版社。

(研究文献)

[和文] (姓名五十音順)

青山亨「東南アジア島嶼部におけるインド系文字」『上智アジア学』二〇、二〇〇二年。

浅見直一郎「帳下督に関する一考察」『大谷大大学史学論究』一三、二〇〇七年。

安部聡一郎「党錮の「名士」再考——貴族制成立過程の再検討のために」『史学雑誌』一一（一〇）、二〇〇二年。

阿部幸信「漢代官僚機構の構造——中国古代帝国の政治的上部構造に関する試論」『九州大学東洋史論集』三一、二〇〇三年。

飯尾秀幸「中国古代における人の移動とその規制に関する基礎的研究」『(専修大学) 人文科学年報』三七、二〇〇七年。

飯尾秀幸「中国古代国家史研究の論点と課題」『歴史評論』八三七、二〇二〇年。

飯島春敬編著『爨宝子碑・爨龍顏碑 一碑一帖中国碑法帖精華 第七卷』東京書籍、一九八四年。

飯田祥子「前漢後半期における郡県民支配の変化——内郡・辺郡の分化から」『東洋学報』八六（三）、二〇〇四年。

飯田祥子「後漢辺郡支配に関する一考察——放棄と再建を手がかりとして」『名古屋大学東洋史研究報告』三〇、二〇〇六年。

飯田祥子「近二十年の日本における後漢時代史研究の論点」『中国史学』二八、二〇一八年。

飯山正雄「爨宝子碑の爨氏について」『不手非止』二、一九八〇年。

石井仁「漢末州牧考」『秋大史学』三八、一九九二年。

石井仁「孫呉政権の成立をめぐる諸問題」『東北大学東洋史論集』六、一九九五年。

石井仁『曹操 魏の武帝』新人物往来社、二〇〇〇年。

石井仁「虎賁班劍考——漢六朝の恩賜・殊礼と故事」『東洋史研究』五九（四）、二〇〇一年。

石井仁「六朝都督制研究の現状と課題」『駒沢史学』六四、二〇〇五年。

石井仁「呉・蜀の都督制度とその周辺」『三国志研究』一、二〇〇六年。

石田德行「劉宋時代の巴蜀仏教」『仏教史学』一六（一）、一九七二年。

石田德行「6世紀後半の巴蜀と仏教」『東方宗教』四八、一九七六年。

板橋暁子「西晋帝政帝再考——長安からの「中興」と秩序形成」『東方学』一三二、二〇一六年。

伊藤新一「爨宝子碑——雲南と彝族」『武蔵野女子大学紀要』一六、一九八一年。

伊藤新一「爨龍顏碑」『武蔵野女子大学紀要』二三、一九八八年。

- 稲村務「水と馬——清末までの雲南南部における「盆地国家連合」と「山稜交易国家」
『地理歴史人類学論集』六、二〇一五年。
- 井ノ口哲也『後漢経学研究序説』勉誠出版、二〇一五年。
- 上田早苗「巴蜀の豪族と国家権力——陳寿とその祖先たちを中心に」『東洋史研究』二五
(四)、一九六七年。
- 上田信『海と帝国——明清時代 中国の歴史 〇九』講談社、二〇〇五年。
- 上田信『東ユーラシアの生態環境史』山川出版社、二〇〇六年。
- 上田信『貨幣の条件——タカラガイの文明史』筑摩書房、二〇一六年。
- 上谷浩一「蜀漢政権論——近年の諸説をめぐって」『東方学』九一、一九九六年。
- 植松慎悟「後漢時代における刺史の「行政官化」再考」『九州大学東洋史論集』三六、二
〇〇八年。
- 植松慎悟「漢代における州牧と刺史に対する認識をめぐって」『九州大学東洋史論集』四
一、二〇一三年。
- 宇都宮清吉『漢代社会経済史研究』補訂版、弘文堂、一九六七年。
- 遠藤祐子「漢代における地方官学の政治的機能」『立命館史学』一四、一九九三年。
- 大川富士夫『六朝江南の豪族社会』雄山閣、一九八七年。
- 大川裕子『中国古代の水利と地域開発』汲古書院、二〇一五年。
- 大澤陽典「杜弼の乱とその周辺」『立命館文学』四三九 - 四四一、一九八二年。
- 大庭脩「秦の蜀地経営」『龍谷史壇』三三、一九五〇年。
- 大庭脩『秦漢法制史の研究』創文社、一九八二年。
- 大原良通『王権の確立と授受——唐・古代チベット帝国（吐蕃）・南詔国を中心として』
汲古書院、二〇〇三年。
- 大淵忍爾『初期の道教——道教史の研究其の一』創文社、一九九一年。
- 尾形勇「中国の姓氏」井上光貞ほか編『東アジア世界における日本古代史講座 一〇 東
アジアにおける社会と習俗』学生社、一九八四年、所収。
- 岡田宏二『中国華南民族社会史研究』汲古書院、一九九三年。
- 岡安勇「古代中国西南地域の大姓 一 『華陽国志』を通して見た」『法政史学』四〇、
一九八八年。
- 小木良一「爨宝子碑再考」『帝京大学文学部紀要 日本アジア言語文化』三一、二〇〇〇
年。
- 尾崎康「後漢の交趾刺史について——士燮をめぐる諸勢力」『史学』三三（三・四）、一九
六一年。
- 越智重明『魏晋南朝の貴族制』研文出版、一九八二年。
- 小野田恵「ベトナムにおける北属期考古学研究——古墓研究の歩みと展望」『昭和女子大
学大学院生活機構研究科紀要』二三、二〇一四年。
- 小尾郊一『文選 七』全釈漢文大系、集英社、一九七五年。

- 小尾孟夫「南朝における地方支配と豪族——地方長官の本籍地任用問題について」『東方学』四二、一九七一年。
- 小尾孟夫「南朝辺州支配における一形態——寧州刺史爨龍顏を中心として」『広島大学文学部紀要』三二（一）、一九七三年。
- 柿沼陽平「漢末群雄の経済基盤と財政補填策」『三国志研究』一一、二〇一六年。
- 柿沼陽平「三国時代西南夷の社会と恩信」『帝京史学』三〇、二〇一五年。
- 柿沼陽平「三国時代西南夷の社会と生活」早稲田大学長江流域文化研究所編『中国古代史論集——政治・民族・術数』雄山閣、二〇一六年、所収。
- 柿沼陽平『中国古代貨幣経済の持続と転換』汲古書院、二〇一八年。
- 梶山智史「劉宋「爨龍顏碑」からみた南中大姓爨氏」氣賀澤保規編『雲南の歴史と文化とその風土』勉誠出版、二〇一七年、所収。
- 片倉穰『ベトナム前近代法の基礎的研究——『国朝刑律』とその周辺』風間書房、一九八七年。
- 片山智士・荒瀬紀子「爨宝子碑の造形性と用筆法の特徴」『福岡教育大学紀要 第五分冊（芸術・保健体育・家政科編）』四四、一九九五年。
- 勝村哲也「後漢における知識人の地方差と自律性」中国中世史研究会編『中国中世史研究——六朝隋唐の社会と文化』東海大学出版会、一九七〇年。
- 加藤常賢『支那古代家族制度研究』岩波書店、一九四〇年。
- 金子修一『隋唐の国際秩序と東アジア』名著刊行会、二〇〇一年。のち増補改訂版『古代東アジア世界史論考 改訂増補隋唐の国際秩序と東アジア』八木書店、二〇一九年。
- 金子典正「六朝時代の四川仏教美術試論」奈良美術研究所編『仏教美術からみた四川地域』雄山閣、二〇〇七年。
- 狩野直禎「蜀漢国前史」『東方学』一六、一九五八年。
- 狩野直禎「蜀漢政權の構造」『史林』四二（四）、一九五九年。
- 狩野直禎「華陽国志の成立を廻って」『聖心女子大学論叢』二一、一九六三年。
- 狩野直禎「五胡時代の豪族——巴蜀の豪族と成漢国」『歴史教育』一四（五）、一九六六年。
- 狩野直禎『後漢政治史の研究』同朋舎出版、一九九三年。
- 鎌田重雄『秦漢政治制度の研究』日本学術振興会、一九六二年。
- 紙屋正和『漢時代における郡県制の展開』朋友書店、二〇〇九年。
- 川合安「六朝の帳下について」『東洋史研究』四八（二）、一九八九年。
- 川合安『南朝貴族制研究』汲古書院、二〇一五年。
- 川勝義雄『六朝貴族制社会の研究』岩波書店、一九八二年。
- 河上麻由子「ベトナム バクニン省出土仁寿舍利塔銘、及びその石函について」『東方学報』八八、二〇一三年。
- 川手翔生「嶺南士氏交易考」『史滴』三四、二〇一二年。

- 川手翔生「嶺南土氏の勢力形成をめぐって」『史観』一六七、二〇一二年。
- 川手翔生「南越の統治体制と漢代の珠崖郡放棄」『史観』一七四、二〇一六年。
- 川手翔生『中越境界政権としての交趾太守士燮の研究』早稲田大学博士論文、二〇一七年。
- 川野明正『雲南の歴史——アジア十字路に交錯する多民族世界』白帝社、二〇一三年。
- 河原正博『漢民族華南発展史研究』吉川弘文館、一九八四年。
- 川本芳昭『魏晋南北朝時代の民族問題』汲古書院、一九九八年。
- 川本芳昭『東アジア古代における諸民族と国家』汲古書院、二〇一五年。
- 菅野恵美『中国漢代墓葬装飾の地域的研究』勉誠出版、二〇一二年。
- 菊地大「孫呉の南方展開とその影響」竹内洋介・大室智人編『『華陽国志』の世界——巴、蜀、そして南方へのまなざし』東洋大学アジア文化研究所、二〇一八年、所収。
- 菊地大「孫呉・東晋と東南アジア諸国」鈴木靖民・金子修一編『梁職貢図と東部ユーラシア世界』勉誠出版、二〇一四年、所収。
- 菊地大「孫呉政権の対外政策について——東アジア地域を中心に」『駿台史学』一一六、二〇〇二年。
- 北村一仁「北朝～隋における民衆仏教と地域社会——山西省運城市出土の仏教石刻を用いて」『龍谷大学アジア仏教文化研究センター 二〇一四年度研究報告書』龍谷大学アジア仏教文化研究センター、二〇一五年。
- 木村正雄『中国古代帝国の形成——特にその成立の基礎条件』新訂版、比較文化研究所、二〇〇三年。
- 工藤元男「睡虎地秦墓竹簡の属邦律をめぐって」『東洋史研究』四三（一）、一九八四年。
- 工藤元男「秦の巴蜀支配と法制・郡県制」早稲田大学アジア地域文化エンハンシング研究センター編『アジア地域文化学の構築』雄山閣、二〇〇六年、所収。
- 工藤元男「東アジア世界の形成と百越世界——前漢と閩越・南越の関係をを中心に」早稲田大学アジア地域文化エンハンシング研究センター編『アジア地域文化学の発展』雄山閣、二〇〇六年、所収。
- 工藤元男「中国文明と“四川モデル”」『創文』五一六、二〇〇九年。
- 工藤元男「禹が運んだ道」工藤元男先生退休記念論集編集委員会『中国古代の法・政・俗』汲古書院、二〇一九年。
- 窪添慶文『魏晋南北朝官僚制研究』汲古書院、二〇〇三年。
- 熊谷滋三「後漢の異民族統治における官爵授与について」『東方学』八〇、一九九〇年。
- 栗原悟『雲南の多様な世界——歴史・民族・文化』大修館書店、二〇一一年。
- 桑原隲蔵「歴史上より観たる南北支那」『桑原隲蔵全集 第二巻』岩波書店、一九六八年、所収。
- 氣賀澤保規「雲南学の構築にむけて——その歴史的地政学的概観」同編『雲南の歴史と文化とその風土』勉誠出版、二〇一七年、所収。

- 氣賀澤保規編『新編唐代墓誌所在総合目録』明治大学東アジア石刻文物研究所、二〇一七年。
- 黄曉芬編『交趾郡治・ルイロウ遺跡Ⅱ——二〇一四・一五年度発掘調査からみた紅河デルタの古代都市像』フジデンシ出版、二〇一七年。
- 古賀登「中国複合文化試論」早稲田大学文学部東洋史研究室編『中国前近代史研究——栗原朋信博士追悼記念』雄山閣、一九八〇年、所収。
- 小嶋茂稔「後漢時代史研究の特質と課題——後漢=豪族連合政権論批判」『歴史評論』六九九、二〇〇八年。
- 小嶋茂稔『漢代国家統治の構造と展開——後漢国家論研究序説』汲古書院、二〇〇九年。
- 小嶋茂稔「後漢の刺史の兵権行使に関する再検討」『日本秦漢史研究』二〇、二〇一九年。
- 小嶋茂稔「「共同体」論争」の意義と課題」『歴史評論』八三七、二〇二〇年。
- 後藤均平「後漢書所見越南三郡反乱記事小考（上）——2世紀の越南」『（新潟大学）人文科学研究』三三、一九六七年。
- 後藤均平「二世紀の越南」『史苑』三一（二）、一九七一年。
- 後藤均平「土燮」『史苑』三二（一）、一九七二年。
- 後藤均平「交州土着刺史——四・五世紀の越南」『歴史学研究』三九四、一九七三年。
- 後藤均平『ベトナム救国抗争史——ベトナム・中国・日本』新人物往来社、一九七五年。
- 小林聡「後漢の少数民族統御官に関する一考察」『九州大学東洋史論集』一七、一九八九年。
- 小林正美『中国の道教』創文社、一九九八年。
- 坂井隆・西村正雄・新田栄治『東南アジアの考古学』同成社、一九九八年。
- 桜井由躬雄「雒田問題の整理——古代紅河デルタ開拓試論」『東南アジア研究』一七（一）、一九七九年。
- 桜井由躬雄「10世紀紅河デルタ開拓試論」『東南アジア研究』一七（四）、一九八〇年。
- 桜井由躬雄「ベトナム紅河デルタにおける水田開発の史的展開」『国際農林業協力』二〇（七）、一九九七年。
- 桜井由躬雄「東南アジアの原史——歴史圏の誕生」山本達郎編『岩波講座東南アジア史 一 原史東南アジア世界』岩波書店、二〇〇一年、所収。
- 桜井由躬雄「南海交易ネットワークの成立」山本達郎編『岩波講座東南アジア史 一 原史東南アジア世界』岩波書店、二〇〇一年、所収。
- 桜井由躬雄「東南アジア史の四〇年」東南アジア学会監修・東南アジア史学会40周年記念事業委員会編『東南アジア史研究の展開』山川出版社、二〇〇九年、所収。
- 佐竹靖彦「漢代十三州の地域性について」『歴史評論』三五七、一九八〇年。
- 佐藤利行「王羲之と周撫」『広島大学大学院文学研究科論集』七四、二〇一四年。
- 佐藤長『古代チベット史研究（上・下）』東洋史研究会、一九五八・一九五九年。

- 沢章敏「五斗米道張魯政権の性格」記念論集刊行会編『古代東アジアの社会と文化——福井重雅先生古稀・退職記念論集』汲古書院、二〇〇七年、所収。
- 徐朝龍「古代蜀国史研究の新視点——『蜀王本紀』と『華陽国志・蜀志』との読み比べを通じて」『史林』七九（三）、一九九六年。
- 徐朝龍『三星堆・中国古代文明の謎——史実としての『山海経』』大修館書店、一九九八年。
- 白鳥庫吉『白鳥庫吉全集 第四巻・第五巻 塞外民族史研究』岩波書店、一九七〇年。
- 白鳥芳郎『華南文化史研究』六興出版、一九八五年。
- 秦公主編『中国石刻大観 精粹篇 一五 爨宝子碑・爨龍顏碑』同朋舎、一九九二年。
- 新川登亀男「漢字受容にみる日本列島の地域文化」早稲田大学アジア地域文化エンハンシング研究センター編『アジア地域文化学の構築』雄山閣、二〇〇六年、所収。
- 新保良明『古代ローマの帝国官僚と行政——小さな政府と都市』ミネルヴァ書房、二〇一六年。
- ジェームズ・C・スコット（佐藤仁監訳・池田一人ほか共訳）『ゾミア——脱国家の世界史』みすず書房、二〇一三年。
- 角谷常子「後漢時代の刻石流行の背景」同編『古代東アジアの文字文化と社会』臨川書店、二〇一九年、所収。
- 角谷常子編『古代東アジアの文字文化と社会』臨川書店、二〇一九年。
- 諏訪義純「梁武帝の蜀地経略と仏教——益州刺史の任免を中心として」『大谷史学』一二、一九七〇年。
- 高橋龍三郎「アジア地域文化学の発展 総論」早稲田大学アジア地域文化エンハンシング研究センター編『アジア地域文化学の発展』雄山閣、二〇〇六年、所収。
- 高村武幸「日本における近十年の秦漢国制史研究の動向——郡県制・兵制・爵制研究を中心に」『中国史学』一八、二〇〇八年。
- 竹内洋介・飯塚勝重・大室智人編『『華陽国志』訳注稿』人名・地名・官職名索引』東洋大学アジア文化研究所、二〇一七年。
- 竹内洋介・大室智人編『『華陽国志』の世界——巴、蜀、そして南方へのまなざし』東洋大学アジア文化研究所、二〇一八年。
- 竹園卓夫「後漢安帝以後における刺史の軍事に関する覚え書き」『集刊東洋学』三七、一九七七年。
- 竹村卓二『ヤオ族の歴史と文化——華南・東南アジア山地民族の社会人類学的研究』弘文堂、一九八一年。
- クリスチャン・ダニエルス編『東南アジア大陸部山地民の歴史と文化』言叢社、二〇一四年。
- 谷川道雄『隋唐帝国形成史論』筑摩書房、一九七一年。のち増補版、一九九八年。
- 谷口房男『華南民族史研究 正・続』緑蔭書房、一九九六・二〇〇六年。

- 種部いく子「古代の巴と蜀——秦による巴・蜀統治を中心として」『学習院史学』三、一九六六年。
- 田村實造「漢代における広東・仏印地方の開拓」『東洋史研究』九（五・六）、一九四七年。
- 俵寛司『脱植民地主義のベトナム考古学——「ベトナムモデル」「中国モデル」を超えて』風響社、二〇一四年。
- 張光直（量博満訳）『考古学よりみた中国古代』雄山閣、一九八〇年。
- 長江流域文化研究所編『長江流域と巴蜀、楚の地域文化』雄山閣、二〇〇六年。
- 張得戦 Trương Đắc Chiến（範氏秋江 Phạm Thị Thu Giang・新津健一郎訳）「二〇一四年ルイロウ古城発掘調査の新発見」黄曉芬・鶴間和幸編『東アジア古代都市のネットワークを巡る——日・越・中の考古学最前線』汲古書院、二〇一八年、所収。
- 池麗梅「身を遺す僧と名を亡くした僧の遭遇——僧崖と亡名」『鶴見大学仏教文化研究所紀要』一九、二〇一四年。
- 陳荊和「安南訳語の研究 一」『史学』三九（三）、一九六七年。
- 津田資久『『華陽国志』に見える蜀漢叙述』竹内洋介・大室智人編『『華陽国志』の世界——一巴、蜀、そして南方へのまなざし』東洋大学アジア文化研究所、二〇一八年、所収。
- 土口史記『先秦時代の領域支配』京都大学学術出版会、二〇一一年。
- 土口史記「秦代の令史と曹」『東方学報』九〇、二〇一五年。
- 都築晶子「西晋末期の諸集団について——その統合の過程と理念」『名古屋大学東洋史研究報告』一〇、一九八五年。
- 鶴間和幸「漢代豪族の地域的性格」『史学雑誌』八七（一二）、一九七八年。
- 鶴間和幸『ファーストエンペラーの遺産 中国の歴史 〇三』講談社、二〇〇四年。
- 鶴間和幸『秦帝国の形成と地域』汲古書院、二〇一三年。
- アレクサンダー＝C＝ディーナー・ジョシュア＝ヘーガン（川久保文紀訳）『境界から世界を見る——ボーダースタディーズ入門』岩波書店、二〇一五年。
- 照内崇仁「後漢時代の私塾に関する基礎的検討」『史料批判研究』九、二〇一〇年。
- 照内崇仁「後漢時代を中心とする学問授受に関する事例一覧」『史料批判研究』九、二〇一〇年。
- 鳥居龍蔵『人類学上より見たる西南支那』富山房、一九二六年。のち同『中国の少数民族地帯をゆく』朝日新聞社、一九八〇年。
- 内藤湖南『内藤湖南全集 第八卷』筑摩書房、一九六九年。
- 内藤湖南『内藤湖南全集 第十卷』筑摩書房、一九六九年。
- 永田拓治「「先賢伝」「耆旧伝」の歴史的な性格——漢晋時代の人物と地域の叙述と社会」『中国』二一、二〇〇六年。

- 永田拓治「「状」と「先賢伝」「耆旧伝」の編纂——「郡国書」から「海内書」へ」『東洋学報』九一（三）、二〇〇九年。
- 永田拓治「漢晋期における「家伝」の流行と先賢」『東洋学報』九四（三）、二〇一二年。
- 永田英正『漢代史研究』汲古書院、二〇一八年。
- 中林史朗『中国中世四川地方史論集』勉誠出版、二〇一五年。
- 中林史朗訳『中国古典新書続編 華陽国志』明德出版社、一九九五年。
- 中村圭爾『六朝江南地域史研究』汲古書院、二〇〇六年。
- 中村圭爾「両晋南北朝墓誌と公文書」伊藤敏雄編『魏晋南北朝史と石刻史料研究の新展開——魏晋南北朝史像の再構築に向けて』科学研究費報告書、二〇〇九年、所収。
- 中村慎一「良渚文化の滅亡と「越」的世界の形成」梅原猛・伊東俊太郎・安田喜憲総編集『講座 文明と環境 第五巻』、朝倉書店、二〇〇八年、所収。
- 中村威也「中国古代西南地域の異民族——特に後漢巴郡における「民」と「夷」について」『中国史学』一〇、二〇〇〇年。
- 中村裕一『唐代公文書研究』汲古書院、一九九六年。
- 中本圭亮「後漢順帝期の人事制度改革について」『集刊東洋学』一〇八、二〇一三年。
- 仲山茂「漢代の掾史」『史林』八一（四）、一九九八年。
- 成家徹郎編著『巴蜀印章図集』大東文化大学人文科学研究所、二〇一四年。
- 新津健一郎「「蜀都」とその社会——成都 二二一・三四七年」窪添慶文編『アジア遊学（二一三） 魏晋南北朝史のいま』勉誠出版、二〇一七年、所収。
- 西川和孝「唐南寧郡王『爨公墓誌銘』試釈——9世紀西南中国の政治動向をめぐる新史料」『中央大学アジア史研究』二九、二〇〇五年。
- 西川利文「後漢の官吏登用法に関する二、三の問題」『佛教大學大学院研究紀要』一五、一九八七年。
- 西川利文「漢代の郡国文学——尹湾漢墓簡牘の事例を手がかりとして」『鷹陵史学』二八、二〇〇二年。
- 西川寧『支那之書道』興文社、一九四一年。
- 西嶋定生『中国の歴史 二 秦漢帝国』講談社、一九七四年。
- 西嶋定生『中国古代帝国の形成と構造——二十等爵制の研究』東京大学出版会、一九六一年。
- 西嶋定生『中国古代国家と東アジア世界』東京大学出版会、一九八三年。
- 西林昭一『爨宝子碑・爨龍顏碑（東晋・劉宋）』二玄社、一九八九年。
- 西村昌也『ベトナムの考古・古代学』同成社、二〇一一年。
- 西村昌也「ベトナム形成史における“南”からの視点——考古学・古代学からみた中部ベトナム（チャンパ）と北部南域（タインホア・ゲアン地方）の役割」『周縁の文化交渉学』六、二〇一二年。

- 西村昌也・西野範子『ヴェトナム紅河平原遺跡データ集』文部科学省科学研究費研究報告、二〇〇三年。
- 西山暁義「世界史のなかで変動する地域と生活世界」荒川正晴ほか編集委員『岩波講座世界歴史 〇一 世界史とは何か』岩波書店、二〇二一年、所収。
- 野口優「後漢辺境における軍事防衛体制の転換」『古代文化』六六（一）、二〇一四年。
- 橋本栄一「雲南爨氏碑考（一） 爨宝子碑の紀年を中心として」『東京学芸大学紀要 第五部門（芸術・健康・スポーツ科学）』四五、一九九三年。
- 浜口重国『秦漢隋唐史の研究』下、東京大学出版会、一九六六年。
- 濱田瑞美「漢碑考——かたちと意匠をめぐって」『美術史研究』四一、二〇〇三年。
- 林謙一郎「「中国」と「東南アジア」のはざままで——雲南における初期国家形成」山本達郎編『岩波講座東南アジア史 第一巻 原史東南アジア世界』岩波書店、二〇〇一年、所収。
- 東晋次「漢代の諸生」『愛媛大学教育学部紀要（人文・社会科学）』一六、一九八四年。
- 東晋次『後漢時代の政治と社会』名古屋大学出版会、一九九五年。
- 久村因「前漢の遷蜀刑に就いて」『東洋学報』三七（二）、一九五四年。
- 久村因「古代四川に土着せる漢民族の来歴について」『歴史学研究』二〇四、一九五七年。
- 久村因「史記西南夷列伝集解稿 一・四」『名古屋大学教養部紀要 A 人文科学・社会科学』一四・一五・一六・一八、一九七〇・一九七一・一九七二・一九七四年。
- 肥田路美「四川で出土した南北朝時代の仏教石像をめぐって」濱田瑞美責任編集『アジア仏教美術論集 後漢・三国・南北朝』中央公論美術出版、二〇一七年、所収。
- 平勢隆郎『都市国家から中華へ 中国の歴史 〇二』講談社、二〇〇五年。
- 平勢隆郎『「八紘」とは何か』汲古書院、二〇一二年。
- 廣瀬憲雄『東アジアの国際秩序と古代日本』吉川弘文館、二〇一一年。
- ファム＝レ＝フイ「新発見の仁寿元年の交州舍利塔銘について」新川登亀男編『仏教文明と世俗秩序——国家・社会・聖地の形成』勉誠出版、二〇一五年、所収。
- ファム＝レ＝フイ「ベトナムにおける新発見の陶瓊廟碑」新川登亀男編『日本古代史の方法と意義』勉誠出版、二〇一八年、所収。
- 福井康順『道教の基礎的研究』、理想社、一九五二年。
- 福井重雅「漢末東州兵出自考——山東と巴蜀の文化をめぐって」『史観』一〇〇、一九七九年。
- 福井重雅『漢代官吏登用制度の研究』創文社、一九八八年。
- 藤澤義美「唐朝雲南経営史の研究」『岩手大学学芸学部研究年報』一〇・一一・一三、一九五六・一九五七・一九五八年。
- 藤澤義美『西南中国民族史の研究——南詔国の史的研究』大安、一九六九年。

- 藤田高夫「蜀の学堂——漢代成都の郡国学」『関西大学文学論集』六二（四）、二〇一三年。
- 藤野月子『王昭君から文成公主へ——中国古代の国際結婚』九州大学出版会、二〇一二年。
- 伏見仲敬『呉谷朗碑・禪国山碑』二玄社、一九六九年。
- 藤原楚水注釈『爨龍顔・爨宝子碑』名碑法帖通解叢書、清雅堂、一九五〇年。
- 船木勝馬「魏書實李雄伝雑考」『中央大学文学部紀要』一四五、一九九二年。
- 古田元夫「地域区分論——つくられる地域、こわされる地域」樺山紘一ほか編『岩波講座 世界歴史 一 世界史へのアプローチ』岩波書店、一九九八年、所収。
- 古畑徹『渤海国と東アジア』汲古書院、二〇二一年。
- 保科季子「近年の漢代「儒教の国教化」論争について」『歴史評論』六九九、二〇〇八年。
- 前嶋信次「雲南の塩井と西南夷（上・下）」『歴史と地理』二八（五・六）、一九三一年。
- 前島佳孝『西魏・北周政権史の研究』汲古書院、二〇一三年。
- 前田直典「東アジアに於ける古代の終末」鈴木俊・西嶋定生共編『中国史の時代区分』東京大学出版会、一九五七年、所収。
- 増淵龍夫『中国古代の社会と国家——秦漢帝国成立過程の社会史的研究』弘文堂、一九六〇年。のち新版、岩波書店、一九九六年。
- アンリ＝マスペロ（川勝義雄訳）『道教』平凡社、一九七八年。
- 松井秀一「唐代前半期の四川——律令制支配と豪族層との関係を中心として」『史学雑誌』七一（九）、一九六二年。
- 松井秀一「唐代後半期の四川——官僚支配と土豪層の出現を中心として」『史学雑誌』七三（一〇）、一九六四年。
- 松田壽男『漠北と南海——アジア史における沙漠と海洋』四海書房、一九四二年。
- 丸山宏「仏教受容に関する接触論的考察——六朝隋唐期の四川をテーマとして」野口鉄郎編『中国史における乱の構図——筑波大学創立十周年記念東洋史論集』雄山閣、一九八六年、所収。
- 三崎良章『五胡十六国の基礎的研究』汲古書院、二〇〇六年。
- 満田剛「劉璋政権について——漢魏交替期の益州と関中・河西回廊」『東洋哲学研究所紀要』三二、二〇一六年。
- 満田剛「劉焉政権について——後漢末期の益州と関中・河西回廊」『創価大学人文論集』二九、二〇一七年。
- 三津間弘彦「『後漢書』南蛮伝の領域性とその史的背景——交趾部と荊州南部の関係から」『大東文化大学漢学会誌』五三、二〇一四年。
- 宮川尚志『六朝史研究 政治・社会篇』日本学術振興会、一九五六年。
- 宮川尚志「三国の分立と交州の地位」『東洋史研究』七（二・三）、一九四二年。

- 宮川尚志「劉宋の司馬飛竜の乱をめぐる一考察」『東洋史研究』二三（二）、一九六四年。
- 宮崎市定『宮崎市定全集 五 史記』岩波書店、一九九一年。
- 宮崎市定『宮崎市定全集 六 九品官人法』岩波書店、一九九二年。
- 宮崎市定『宮崎市定全集 七 六朝』岩波書店、一九九二年。
- 向井佑介「書評 黄曉芬編著『交趾郡治・ルイロウ遺跡II——二〇一四・一五年度発掘からみた紅河デルタの古代都市像』」『史林』一〇一（六）、二〇一八年。
- 村井恭子「押蕃使の設置について——唐玄宗期における対異民族政策の転換」『東洋学報』八四（四）、二〇〇三年。
- 榑山明『秦漢出土文字史料の研究——形態・制度・社会』創文社、二〇一五年。
- 榑山明「辺境に立つ公文書——四川昭昭覚県出土《光和四年石表》試探」角谷常子編『古代東アジアの文字文化と社会』臨川書店、二〇一九年、所収。
- 桃木至朗「『中国化』と『脱中国化』——地域世界の中のベトナム民族形成史」大峯顯・原田平作・中岡成文編『地域のロゴス』世界思想社、一九九三年、所収。
- 桃木至朗『中世大越国家の成立と変容』大阪大学出版会、二〇一一年。
- 森鹿三「禹貢派の人々」『東洋史研究』一（二）、一九三五年。
- 森正夫「中国前近代史研究における地域社会の視点」『名古屋大学文学部研究論集』八三、一九八二年。のち同『地域社会研究方法 森正夫明清史論集 第三卷』汲古書院、二〇〇六年、所収。
- 森野繁夫・佐藤利行『王羲之全書翰』増補改訂版、白帝社、一九九六年。
- 森部豊『ソグド人の東方活動と東ユーラシア世界の歴史的展開』関西大学出版部、二〇一〇年。
- 森部豊「中国『中古史』研究と『東ユーラシア世界』」『唐代史研究』二三、二〇二〇年。
- 守屋美都雄『中国古代の家族と国家』東洋史研究会、一九六八年。
- 矢野主税『門閥社会成立史』国書刊行会、一九七六年。
- 山内圭「五斗米道について」『大正史学』二五・二六、一九九六年。
- 山形眞理子・桃木至朗「林邑と環王」山本達郎編『岩波講座東南アジア史 一 原史東南アジア世界』岩波書店、二〇〇一年、所収。
- 山口瑞鳳『吐蕃王国成立史研究』岩波書店、一九八三年。
- 山口正晃「都督制の成立」『東洋史研究』六〇（二）、二〇〇一年。
- 山口正晃「將軍から都督へ——都督制に対する誤解」『東洋史研究』七六（一）、二〇一七年。
- 山田敦士編『アジア遊学 二三一 中国雲南の書承文化——記録・保存・継承』勉誠出版、二〇一九年。
- 山田賢「中国明清時代史研究における『地域社会論』の現状と課題」『歴史評論』五八〇、一九九八年。
- 山本達郎編『岩波講座東南アジア史 一 原史東南アジア世界』岩波書店、二〇〇一年。

- 横田恭三『中国文字文化の旅』芸術新聞社、二〇一〇年。
- 吉開将人「銅鼓「再編」の時代——一千年紀のベトナム・南中国」『東洋文化』七八、一九九八年。
- 吉開将人「印からみた南越世界——嶺南古璽印考（前篇・中篇・後編）」『東洋文化研究所紀要』一三六・一三七・一三九、一九九八・一九九九年・二〇〇〇年。
- 吉開将人「歴史世界としての嶺南・北部ベトナム——その可能性と課題」『東南アジア歴史と文化』三一、二〇〇二年。
- 吉川忠夫『六朝隋唐文史哲論集 一人・家・学術』法藏館、二〇二〇年。
- 吉村怜「成都万仏寺址出土仏像と建康仏教」奈良美術研究所編『仏教美術からみた四川地域』雄山閣、二〇〇七年、所収。
- 葭森健介「晋宋革命と江南社会」『史林』六三（二）、一九八〇年。
- 葭森健介「魏晋の頌徳碑に関する覚書」伊藤敏雄編『魏晋南北朝史と石刻史料研究の新展開——魏晋南北朝史像の再構築に向けて』科学研究費報告書、二〇〇九年、所収。
- 羅二虎（木田知生訳）「漢晋時期の中国“西南シルクロード”」『竜谷大学仏教文化研究所紀要』三三、一九九四年。
- 李成市「漢字受容と文字文化からみた楽浪地域文化」早稲田大学アジア地域文化エンハンスing研究センター編『アジア地域文化学の構築』雄山閣、二〇〇六年、所収。
- 李成市『闘争の場としての古代史——東アジア史のゆくえ』岩波書店、二〇一八年。
- フェルディナント＝フォン＝リヒトホーフェン（能登志雄訳）『支那 V 西南支那』岩波書店、一九四三年。
- 林恵祥（大石隆三・中村弘共訳）『支那民族史』生活社、一九三九年。
- 早稲田大学アジア地域文化エンハンスing研究センター編『アジア地域文化学の構築』雄山閣、二〇〇六年。
- 早稲田大学アジア地域文化エンハンスing研究センター編『アジア地域文化学の発展』雄山閣、二〇〇六年。
- 早稲田大学長江流域文化研究所編「『後漢書』南蛮西南夷列伝訳注（三）」『長江流域文化研究所年報』三、二〇〇五年。
- 和田清「周代の蛮貊について」『東洋学報』二九（三・四）、一九四四年。
- 渡辺信一郎『中国古代国家の思想構造——専制国家とイデオロギー』校倉書房、一九九四年。
- 渡部武「秦漢時代の巴蜀開発」松田壽男博士古稀記念出版委員会編『東西文化交流史』雄山閣、一九七五年、所収。
- 渡部武「朱応・康泰の扶南見聞録輯本稿——三国呉の遣カンボジア使節の記録の復原」『東海大学紀要 文学部』四三、一九八五年。
- 渡邊将智『後漢政治制度の研究』早稲田大学出版部、二〇一四年。
- 渡邊将智「後漢順帝の親政とその統治の展開」『史滴』三八、二〇一六年。

渡邊義浩『後漢国家の支配と儒教』雄山閣、一九九五年。
渡邊義浩『三国政権の構造と「名士」』汲古書院、二〇〇四年。のち増補版、汲古書院、二〇二〇年。
渡邊義浩「陳寿の『三国志』と蜀学」三国志学会編『三国志論集——狩野直禎先生傘寿記念』汲古書院、二〇〇八年。
渡邊義浩『後漢における「儒教国家」の成立』汲古書院、二〇〇九年。
渡邊義浩「常璩『華陽国志』にみえる一統への希求」『早稲田大学総合人文科学研究センター研究誌』六、二〇一八年。

[中文] (姓名拼音アルファベット順)

安作璋・熊鉄基『秦漢官制史稿（上・下）』（齊魯書社、一九八四・一九八五年）
陳国保『兩漢交州刺史部研究——以交趾三郡為中心』雲南大学出版社、二〇一〇年。
陳荊和「交趾名称考」『国立台湾大学文史哲学報』四、一九五二年。
陳衛東・周科華「宕渠与賁城——渠县城壩遺址的考古發現与研究」『四川文物』二〇二一年三期。
陳序經『陳序經東南亞古史研究研究合集』台湾商務印書館、一九九二年。
陳垣『二十史朔閏表』中華書局、一九六二年。
陳勇『《資治通鑑》十六国資料釈証——前秦・後秦国部分』社会科学出版社、二〇一五年。
成都文物考古研究所「成都天府広場東北側古遺址漢代遺存發掘報告」『成都考古發現二〇一三』、科学出版社、二〇一五年。
成都市文物考古研究所「成都市南郊桐梓村唐代龔公墓發掘」『成都考古發現』一九九九年号、科学出版社、二〇〇一年。
成都市文物考古研究所「成都市南郊唐代龔公墓清理簡報」『文物』二〇〇二年一期。
成都文物考古研究所・荊州文物保護中心「成都天回鎮老官山漢墓發掘簡報」『南方民族考古』第一二、科学出版社、二〇一六年。
崔向東『漢代豪族地域性研究』中華書局、二〇一二年。
董憲臣・毛遠明「成都新出漢碑兩種字詞考釈」『学行堂語言文字論叢』四、二〇一四年。
丁克順（Đinh Khắc Thuận）・葉少飛「越南新發現『晋故使持節冠軍將軍交州牧陶列侯碑』初考」『元史及民族与辺境研究集刊』三〇、二〇一五年。
段卜華・毛遠明「《中国国家博物館館刊》四通碑刻釈文校補」『重慶郵電大学学報 社会科学版』二七（一）、二〇一五年。
方北辰『「裴君」当為東漢度遼將軍裴曄——成都市区新近出土漢碑主考証』『南方民族考古』第八、科学出版社、二〇一三年。
方国瑜『雲南史料目錄概説』中華書局、一九八四年。
方国瑜『中国西南歴史地理考釈』中華書局、一九八七年。

- 方国瑜『方国瑜文集』雲南教育出版社、二〇〇一年。
- 馮広宏「天府広場出土漢碑略考」『南方民族考古』第八、科学出版社、二〇一三年。
- 高然・范双双『成漢国史』社会科学文献出版社、二〇二〇年。
- 《貴州通史》編委会『貴州通史』当代中国出版社、二〇〇三年。
- 郭俊然「出土資料所見の漢代散吏考論」『克拉瑪依学刊』二〇一四年四期。
- 郭声波・姚帥「石刻資料与西南民族史地研究——『唐南州都督爨守忠墓誌』解説」『中南民族大学学报 人文社会科学版』二〇一〇年四期。のち郭声波『圈層結構視閥下的中国古代羈縻政区与部族』中国社会科学出版社、二〇一八年、所収。
- 国家文物局主編『中国文物地図集』雲南分冊、文物出版社・雲南科技出版社、二〇〇一年。
- 国家文物局主編『中国文物地図集』四川分冊、文物出版社、二〇〇九年。
- 洪武雄『蜀漢政治制度史考論』文津出版社、二〇〇八年。
- 胡宝国『漢唐間史学の発展』商務印書館、二〇〇三年。
- 胡海帆・湯燕編『北京大学図書館新蔵金石拓本菁華』北京大学出版社、二〇一二年。
- 胡鴻『能夏則大与漸慕華風——政治体視角下的華夏与華夏化』北京師範大学出版社、二〇一七年。
- 胡戟主編『二十世紀唐研究』中国社会科学出版社、二〇〇二年。
- 湖南省文物考古研究所・郴州市文物処「湖南郴州蘇仙橋遺址發掘簡報」『湖南考古輯刊』八、二〇〇九年。
- 何靖「成都天府広場出土二漢碑考釈」『成都文物』二〇一一年二期。のち『南方民族考古』第八、科学出版社、二〇一三年、再録。
- 何耀華総主編『雲南通史』中国社会科学出版社、二〇一一年。
- 何有祖「広州南越国宮署遺址出土西漢木簡考釈」『考古』二〇一〇年一期。
- 黄静・趙寵亮「一九四九年以来巴蜀地区漢代石刻文字の發現与研究」『四川文物』二〇一四年六期。
- 江田祥「空間与政治——漢代交趾刺史部治所変遷及其原因」『社会科学家』二〇一七年四期。
- 蔣曉春・鄭勇徳・劉富立・王勵「論四川閬中南齊《隗先生銘》」『中国国家博物館館刊』二〇一三年五期。
- 蔣曉春・邵磊・張帆・李松・李壽旭「四川閬中石室觀摩崖題刻調查報告」『四川文物』二〇一六年四期。
- 金癸根「東漢党錮人物の分析」『中央研究院歷史語言研究所集刊』三四下、一九六三年。
- 藍勇『南方絲綢之路』重慶大学出版社、一九九二年。
- 黎明釗『輻輳与秩序——漢帝国地方社会研究』香港中文大学出版社、二〇一三年。
- 李敬洵『唐代四川經濟』四川省社会科学院出版社、一九八八年。
- 李敬洵『四川通史 兩晋南北朝隋唐』四川人民出版社、二〇一〇年。

- 梁曉強「爨龍顏碑題名職官分析」『曲靖師專學報』一九（一）、二〇〇〇年。
- 梁曉強『南詔史』中國社會科學出版社、二〇一三年。
- 梁方仲編著『中國歷代戶口・田地・田賦統計』上海人民出版社、一九八〇年。
- 梁雁庵「漢代交州州治沿革」『廣東史志』一九九六年二期。
- 林向「都江堰渠首外江新出土漢碑的初步考察」『中華文化論壇』二〇〇七年三期。
- 林超民・王躍主編『南中大姓與爨氏家族研究』民族出版社、二〇〇二年。
- 劉增貴「漢代的益州士族」『中央研究院歷史語言研究所集刊』六〇（三）、一九八九年。
- 劉雨茂・朱章義「四川地區唐代磚室墓分期研究初論」『成都考古研究』二〇〇九年。
- 劉雨茂ほか編『成都出土歷代墓銘券文圖錄綜彙』文物出版社、二〇一二年。
- 劉重來・徐適端主編『「華陽國志」研究』巴蜀書社、二〇〇八年。
- 呂士朋『北屬時期的越南——中越關係史之一』新亞研究東南亞研究室、一九六四年。
- 魯浩「吳晉宋時期陶氏家族與交州地方——以越南新出“陶烈侯碑”為線索」『海洋史研究』二〇一八年二期。
- 羅開玉『四川通史 秦漢三國』四川人民出版社、二〇一〇年。
- 羅開玉『「李君碑」・「裴君碑」初探』二〇一一年二期。のち『南方民族考古』第八、科學出版社、二〇一三年、再録。
- 羅開玉「成都天府廣場出土石犀・漢碑為秦漢三國蜀郡府衙遺珍說」『四川文物』二〇一三年三期。
- 羅新『王化與山陝——中古邊裔論集』北京大學出版社、二〇一九年。
- 馬長壽『南詔國內的部族組成和奴隸制度』上海人民出版社、一九六一年。
- 馬其偉「滇南『大小爨』及其拓本流傳問題考述」『中國書法』二九三、二〇一六年。
- 馬智然「漢簡『學師』小考」『魯東大學學報 哲學社會科學版』三四（二）、二〇一七年。
- 毛遠明『碑刻文獻學通論』中華書局、二〇〇九年。
- 孟剛・鄒逸麟編『晉書地理志匯編』安徽教育出版社、二〇一八年。
- 蒙文通『巴蜀古史論述』四川民人出版社、二〇一九年。初版、一九八一年。
- 平建友『南碑瑰寶——大小爨碑研究』雲南大學出版社、一九九二年。
- 平建友「爨碑考校三題」林超民・王躍勇主編『南中大姓與爨氏家族研究』民族出版社、二〇〇二年、所収。
- 平建友「爨氏家族入滇時間考」『雲南社會科學』二〇一二年六期。
- 任乃強『四川上古史新探』四川民人出版社、二〇一九年。初版、一九八六年。
- 榮遠大「成都唐代爨守忠墓誌考釋」林超民・王躍勇主編『南中大姓與爨氏家族研究』民族出版社、二〇〇二年、所収。
- 榮遠大・馮先成「成都天府廣場發現東漢石碑（上）」『成都文物』二〇一一年二期。
- 施蜚存『水經注碑錄』天津古籍出版社、一九八七年。
- 施正聲「小爨碑使用“大亨”年號之謎」『曲靖師專學報』一九八五年二期。

- 四川博物院·成都文物考古研究所·四川大学博物館『四川出土南朝佛教造像』中華書局、二〇一三年。
- 四川省文物考古研究院·渠縣歷史博物館「四川渠縣城壩遺址」『考古』二〇一九年七期。
- 宋治民「成都天府廣場出土漢碑的初步研究」『南方民族考古』第八、科學出版社、二〇一三年。
- 宋燕鵬「論兩晉劉宋時期交州的權力格局——以新發現西晉陶璜碑為考察中心」『社會科學戰線』二〇一九年一期。
- 孫華「閬中石室觀《隗先生石室記》」『文物』二〇一四年八期。
- 孫齊「南齊《隗先生銘》與南朝道館的興起」『魏晉南北朝隋唐史資料』三一、二〇一五年。
- 孫齊「中古道教法服制度的成立」『文史』二〇一六年四期。
- 孫齊「六朝荊襄道上的道教」『隋唐遼宋金元史論叢』八、二〇一八年。
- 孫喆·王江『邊疆·民族·國家——“禹貢”半月刊與20世紀30-40年代的中国邊疆研究』中國人民大學出版社、二〇一三年。
- 唐長孺『魏晉南北朝史論叢 續編』生活·讀書·新知三聯書店、一九五九年。
- 童恩正『古代的巴蜀』四川人民出版社、一九七九年。
- 童恩正『中國西南民族考古論文集』文物出版社、一九九〇年。
- 王翠竹「方北辰先生“《裴君碑》碑主系裴曄”說質疑」『黑龍江史志』二〇一六年九期。
- 汪清『兩漢魏晉南朝州刺史制度研究』合肥工業大學出版社、二〇〇六年。
- 王安泰「“恢復”與“繼承”——孫吳的天命正統與天下秩序」『廈門大學學報 哲學社會科學版』二〇一六年五期。
- 王明珂『華夏邊緣——歷史記憶與族群認同』上海人民出版社、二〇一九年。
- 王昕「漢唐洞窟志怪的文化史研究——以文學性的生發為線索」『清華大學學報 哲學社會科學版』二〇一九年二期。
- 魏俊傑「兩漢至隋唐州牧的演變」『唐都學刊』二〇一八年一期。
- 魏俊傑『十六國疆域與政區研究』復旦大學出版社、二〇一八年。
- 五伯常「方土大姓與外來勢力——論劉焉父子的權力基礎」『漢學研究』一九（二）、二〇〇一年。
- 吳廷燮「東晉方鎮年表」二十五史刊行委員會編『二十五史補編 第三冊』開明書店、一九五九年、所收。
- 熊承滌『中國古代教育史料繫年』人民教育出版社、一九八五年。
- 閻步克『察舉制度變遷史稿』遼寧大學出版社、一九九一年。
- 嚴耕望『兩漢太守刺史表』商務印書館、一九四八年。
- 嚴耕望『秦漢地方行政制度』中央研究院歷史語言研究所、一九六一年。
- 嚴耕望『魏晉南北朝地方行政制度』中央研究院歷史語言研究所、一九六三年。
- 嚴耕望『唐代交通圖考』中央研究院歷史語言研究所、一九八五 - 二〇〇六年。

- 楊子默「漢代巴蜀石碑特点」『中国書画』二〇一二年一期。
- 楊偉立『成漢史略』重慶出版社、一九八三年。
- 楊玠「爨宝子碑和爨龍顏碑」『文物』一九七七年四期。
- 尤中『中国西南民族史』雲南人民出版社、一九八五年。
- 尤中『中国西南的古代民族』雲南大学出版社、二〇〇九年。初版、一九八〇年。
- 袁延勝・史泰豪「成都天府広場出土「李君碑」簡論」『四川文物』二〇一八年四期。
- 袁嘉穀『滇釋』東陸大学、一九二三年。
- 雲南省博物館編『雲南晋寧石寨山古墓群發掘報告』文物出版社、一九五九年。
- 張蓉『先秦至五代成都古城形態變遷研究』建築工業出版社、二〇一〇年。
- 張勳燎「成都御東御街出土漢碑為漢代文翁石室學堂遺存考——從文翁石室・周公礼殿到錦江学院發展史簡論」『南方民族考古』第八、科学出版社、二〇一三年。のち同『中国歴史考古學論文集』下冊、科学出版社、二〇一三年、所収。
- 張勳燎「成都東御街出土漢碑統考——碑石的埋藏層位与『党錮』」『南方民族考古』第一〇、科学出版社、二〇一四年。
- 張寅瀟「漢末交州流寓士人考析」『史志學刊』二〇一八年一期。
- 張沢洪「中国西南少数民族鬼主制度研究」『思想戰線』三八、二〇一二年。
- 張增祺「古代雲南的“梁堆”墓及其族属新探」『雲南民族学院學報 哲学社会科学版』一九八九年四期。
- 張增祺『中国西南民族考古』雲南人民出版社、一九九〇年。
- 章紅梅『文物』近年所刊兩通石刻积文校補『古籍整理研究學刊』二〇一四年五期。
- 趙超『中国古代石刻概論』中華書局、二〇一九年。
- 趙超・趙久湘「成都新出漢碑兩種积讀」『文物』二〇一二年九期。
- 周偉洲『吐谷渾資料輯錄』商務印書館、二〇一七年。
- 周永衛『兩漢交趾与益州对外關係研究——以若干物質文化交流為主』汕頭大学出版社、二〇〇九年。
- 周鼎「羌曾董氏与唐代劍南道西山地域——以新出『董嘉猷妻郭氏墓誌』為線索」『九州大學東洋史論集』四四、二〇一六年。
- 宗鳴安「新見南朝大明年《隗先生銘》」『收藏』二〇〇九年一一期。

〔韓文〕

- 金秉駿（김병준）『中國古代地域文化外郡縣支配——四川地域の巴蜀文化を中心으로（中国古代地域文化と郡県支配——四川地域の巴蜀文化を中心として）』一潮閣、一九九七年。
- 鄭勉（정면）「唐代「南中」지역과「西爨」——「爨守忠墓誌」의 해석을 중심으로（唐代南中地域と西爨——爨守忠墓誌の解釈を中心に）」『동양사학연구（東洋史學研究）』一一〇、二〇一〇年。

鄭勉 (정면) 「『爨龍顏碑』를 통해 본 5세기 雲南 ‘西爨’ 세력의 성격 (爨龍顏碑を通してみる五世紀雲南西爨勢力の性格)」『중국고중세사연구 (中国古中世史研究)』 一八、二〇〇七年。

[欧文・越文]

Backus Charles, *The Nan-chao Kingdom and T'ang China's Southwestern Frontier*. Cambridge University Press, 1981.

Beckwith Christopher, *The Tibetan Empire in Central Asia: A History of the Struggle for Great Power among Tibetans, Turks, Arabs, and Chinese during the Early Middle Ages*. Princeton University Press, 1987.

Brindley Erica Fox, *Ancient China and the Yue: Perceptions and Identities on the Southern Frontier, c. 400BCE-50CE*. Cambridge University Press, 2015.

Cooke Nola, Li Tana and Anderson James eds., *The Tongking Gulf through History*. University of Pennsylvania Press, 2011.

Đào Duy Anh, *Lịch sử Việt Nam: Từ Nguồn gốc đến cuối thế kỷ mười chín*. Nhà xuất bản Văn học Thông tin, 2006.

Đào Duy Anh, *Đất nước Việt Nam qua các đời: Nghiên cứu Địa lý học Lịch sử Việt Nam*. Nhà xuất bản Khoa học, 1964.

Đỗ Văn Ninh, *Thành Cổ Việt Nam*. Nhà xuất bản Khoa học Xã hội, 1983.

Ebrey Patricia, "Later Han Stone Inscriptions," *Harvard Journal of Asiatic Studies* 40(2), 1980.

Farmer Michael, *The Talent of Shu: Qiao Zhou and the Intellectual World of Early Medieval Sichuan*. State University of New York Press, 2007.

Felt Jonathan, "Local Geographies and Ecumenical Regionalism," 『中国史学』 二九、二〇一九年。

Funabiki Ayako, Haruyama Shigeko, Nguyen Van Quy, Pham Van Hai and Dinh Hung Thai, "Holocene Delta Plain Development in the Song Hong (Red River) Delta, Vietnam," *Journal of Asian Earth Sciences* 30(3/4), 2007.

Glover Denise, Harrell Stevan, McKhann Charles, Swain Margaret eds., *Explorers and Scientists in China's Borderlands, 1880-1950*. University of Washington Press, 2011.

Hà Văn Tấn chủ biên, *Khảo cổ học Việt Nam Tập 3: Khảo cổ học Lịch sử Việt Nam*. Nhà xuất bản Khoa học Xã hội, 2002.

Hoàng Anh Tuấn, "Regionalising National History: Ancient and Medieval Vietnamese Maritime Trade in the East Asian Context," *The Mediaval History Journal* 17(1), 2014.

Holmgren Jennifer, *Chinese Colonisation of Northern Vietnam: Administrative Geography and Political Development in the Tongking Delta, First to Sixth Centuries A.D.* Faculty of Asian Studies and Australian National University Press, 1980.

- Madrolle Claudine, “Le Tonkin Ancien: Lei-Leou et les Districts Chinois de l’époque des Han: La Population: Yue-chang,” *Bulletin de l’Ecole Française d’Extrême-Orient* 37, 1937.
- Maspero Henri, “Etudes d’histoire d’Annam,” *Bulletin de l’Ecole Française d’Extrême-Orient* 16-18, 1916-1918.
- Maspero Henri, “Le Protectorat Général d’Annam sous les T’ang: Essai de Géographie Historique (I - II),” *Bulletin de l’Ecole Française d’Extrême-Orient* 10, 1910.
- Nam C. Kim, *The Origins of Ancient Vietnam*. Oxford University Press, 2015.
- Nguyễn Phạm Bằng, “Phát hiện Văn bia cổ nhất Việt Nam,” *Chuyên san Khoa học Xã hội và Nhân văn Nghệ An* 7, 2014.
- Nguyễn Phạm Bằng, “Phát hiện Văn bia cổ đầu thế kỷ 4,” *Xưa Nay* 444, 2014.
- Phạm Lê Huy, “Góp phần Nhận thức Minh văn thời Lưu Tống Phát hiện tại Nghè Thôn Thanh Hoài (Thuận Thành, Bắc Ninh),” *Tham luận Hội nghị Thông báo Hán Nôm* 2014.
- Phạm Lê Huy, “Khảo cứu Bia miếu Đào Hoàng (Nghè Thôn Thanh Hoài, Thuận Thành, Bắc Ninh),” *Khảo Cổ Học* 2016 (1).
- Phan Văn Các, Claudine Salmon chủ biên, *Văn khắc Hán Nôm Việt Nam*. Viện Nghiên Cứu Hán Nôm, École Française d’Extrême-Orient, 1998.
- Schweyer Anne-Valérie, “Chronologie des Inscriptions Publiées du Campā,” *Bulletin de l’École Française d’Extrême-Orient* 86, 1999.
- Stein Rolf Alfred, “Le Lin-Yi 林邑,” *Han Hiue: Bulletin du Centre Sinologiques de Pekin* II, fascicules 1-3, 1947.
- Taylor Keith, *The Birth of Vietnam*. University of California Press, 1983.
- Trần Quốc Vượng, “Vị thế Luy Lâu,” *Nghiên Cứu Lịch Sử* 315 (2), 2001.
- Viện Khảo Cổ Học, *Một thế kỷ Khảo cổ học Việt Nam (Tập 1, 2)*. Nhà xuất bản Khoa học Xã hội, 2004, 2005.
- Wang Zhenping, *Tang China in Multi-polar Asia: A History of Diplomacy and War*. University of Hawai‘i Press, 2013.

論文の内容の要旨

論文題目 一世紀から六世紀における西南中国地域社会
史の研究

氏 名 新 津 健 一 郎

本論文は、歴史的中国の西南部に着目し、一世紀から六世紀におけるその歴史展開の特質及び意義を解明することを目的としたものである。歴史的中国の西南部とは、ここでは検討対象時期における中国の西南方面、すなわち現在の四川・重慶・雲南・貴州・広西の各地区及び北中部ベトナム一帯を指す。歴史上の地域を論ずるため、本論文においては、現在のベトナム領内にあたる空間も含めてこの範囲を西南中国と呼ぶ。

西南中国は、秦・漢帝国の下で征服地として経営されたが、後漢時代に入ると現地出身の有力者（「大姓」）が地域社会の指導者として力を伸ばし、漢帝国滅亡後、隋・唐帝国による中国再統合に至るまで、各地に政権が分立・興亡するなかで独自の動向をみせた。しかし従来、この時期の中国を取り上げた歴史研究においては、諸政権の拠点が集中した華北・江南地域に主に焦点が当てられてきた。そこで本論文では、近年利用可能となった史料を用いて西南中国地域における歴史展開を考察し、その特質及び中国史・東アジア史に対する意義を明らかにすることを目指した。

以上の目的に基づき、本論文には七つの章を設け、第一章から第三章を第Ⅰ部、第四章以降を第Ⅱ部とする二部構成をとった。各章の概要は以下のとおりである。

第一章では、二世紀の蜀郡成都で制作された学校碑を取り上げ、地方志『華陽国志』と照合することにより、四川における大姓の成長について検討を行った。その結果、成都の郡学（官立学校）は、蜀郡内外に知識層の性格を持つ大姓を育成し、それらを相互に結びつける役割を果たしたことが明らかになった。中央集権支配のための施策であった地方統治制度や学術振興によって、かえって大姓の成長及び相互の接触が進み、国家が設定した行政区を跨ぐ接触・交流が生まれたと考えられる。

第二章では、二世紀末から三世紀前半の益州に成立した地方政権の性格を検討した。後漢末、地方統治官として州牧が設けられ、益州では劉焉・劉璋父子が相次いでこれに就任した。劉焉らは州牧を長とする統治制度を利用し、さらに地方長官を君臣的關係に組み込んで政権を構築した。その際、後漢時代に成長した四川の大姓をも政権内に取り込んだ。地域社会の側からみれば、州内において現地出身者の地方官採用・転任が緊密化し、大姓相互の接触・交流が一層後押しされる形となった。地方政権の形成と並行して地域社会の統合が進んだといえる。

第三章では、五世紀末の石刻を題材として、四世紀以後の四川における大姓の動向と地域社会・地域文化の変容を考察した。まず、大姓については、記録こそ少なくなるものの、隋帝国の形成期である六世紀後半まで存在が確認された。また、中央から派遣された統治官が大姓と接触する事例も散見した。一方、当時の四川地域においては道教が社会に根差す形で広く信仰され、新興とみられる者も含め、大姓にはこれへの傾斜がみられた。大姓は、地域社会の指導者としては道教のように地域固有性を帯びた文化、統治権力と接する場合には中央における標準的文化を使い分ける存在として、地域における指導性を維持したと考えられる。

以上、第Ⅰ部では、四川地域に注目して西南中国における歴史展開の大枠を明らかにした。秦・漢帝国の下、西南中国には中央集権的支配のために文化・制度が移入されたが、これらはむしろ大姓の成長と結節という状況を生み出した。さらに、広域統治官として新設された州牧が西南中国において軍閥政権を形成すると、その下で地域統合が進展した。地方志『華陽国志』は、このような歴史状況を反映して、大姓の分布・動向や現地出身者を中心とする地域史を記録したと考えられる。

『華陽国志』の成立年代は四世紀半ば、成漢政権滅亡前後の時期とみられる。以後、西南中国は、隋・唐帝国の成立までほぼ一貫して華北または江南に拠点を置く政権の統治を受けた。しかし、この間においても大姓は姿を消したわけではなく、政権との一定の接触を持ちつつ、在地的文化に軸足を置いて地域社会の指導者としての地位を維持した。その下で、西南中国地域は、形式上遠隔統治に従いつつ、現実にはその内部に独自の社会統合を保持していたと考えられる。

続く第Ⅱ部では、ベトナム・雲南方面に視野を拡大して史料分析を行った。

第四章では、二世紀から三世紀における嶺南・北中部ベトナム地域を対象として、行政区と地域社会の關係を検討した。漢帝国の下で、南越国の故地は交趾（交州）に編成されたが、二世紀末にかけて、その中には南北二つの地域統合が顕在化した。後漢末の交趾（交州）では現地出身の交趾太守・士燮が独自の政治勢力を形成したことが知られていたが、その勢力は交趾（交州）南部を中心とするものであった。同様に交趾（交州）南部を影響下に置く勢力が出現する状況は三国時代にかけて散見し、三国呉の末期に至ると、旧交州は、北半にあたる嶺南方面を広州、南半にあたる北中部ベトナムを交州とする形で二州に分割された。地域の結びつきを後追いする形で行政区が再編されたといえる。

第五章では、近年発見された陶列侯碑の性格を考察し、それをもとに三・四世紀の交州（北部ベトナム）における地域社会の動向を検討した。その結果、以下のことが示された。まず、陶列侯碑は広・交二州の分置が固定化する時期から約三〇年にわたり交州刺史を務めた人物・陶璜の顕彰碑であった。また、この碑は四世紀初頭、西晋全体が混乱に陥るなかで、現地出身の有力者が陶璜の子を擁立して交州地域の統合を図った際に制作したモニュメントでもあった。陶列侯碑の存在は、現地出身の有力者が、過去の良吏の権威及びそれを顕彰する漢風の碑を利用して地域統合を試みた痕跡であると考えられる。

第六章では、雲南に現存する爨宝子碑の精読に基づき、五世紀以前の雲南（寧州）における大姓と地域社会の動向を考察した。この碑は五世紀初め、東晋末期の混乱の中で立碑されたもので、雲南の大姓爨氏に関する最初期の独自史料である。時代背景を検討すると、同碑建立の直前には建康政権が寧州への統治の強化を図った形跡が認められた。同様の事象は四世紀後半にも発生しており、その際には刺史が寧州に赴任し、現地社会に対して抑圧的統治を行っていた。これを踏まえて爨宝子碑の内容を精査すると、大姓が現地出身の漢風知識人の存在を喧伝し、大姓及びその指導下にある社会秩序の正統性を主張しようとする意図を持っていたことが読み取れる。爨宝子碑は、建康政権に対し、寧州地域社会の指導者が敢えて漢風文化を用いて対抗を図ったことを示すと考えられる。

第七章では、雲南爨氏に関する最末期の史料と位置づけられる唐代爨公墓誌を手掛かりとして、五世紀以後の雲南地域について検討した。同墓誌は八世紀の史料であるが、父祖の系譜として過去に遡る情報を含む。そこで本章では、この墓誌をもとに、爨氏の大姓としての影響力は五世紀以後にも持続し、六世紀に入ると北朝から官職を受け、さらに唐代に入って郡王として封爵されたことを跡付けた。爨氏は数代にわたる爵位継承ののち、誌主の父の代に内紛を生じた。雲南西部地区を拠点に台頭した南詔はこれに乗じて爨氏を併合し、雲南一帯に新たな秩序を編成した。誌文によれば、唐帝国は、一度は旧来の秩序を復活させることを企てたようであるが、結局は南詔によって改変された現状を追認する結果となった。このように、雲南地域においては、有力者の指導の下で外部の権力に対して自立的な地域社会が持続したのであった。

以上、第Ⅱ部では、北部ベトナム・雲南に注目して地域社会の統合とその展開を検討した。この空間は、第Ⅰ部で取り上げた四川よりも遅れて秦・漢帝国に統合され、ほとんどの部分で後漢末まで郡県制が維持された。二世紀末以降、その中から地域における指導者が漢風の官号を名乗り、あるいは石碑を制作・顕示する事例が現れた。さらに個々の史料を精査していくと、北部ベトナム・雲南にも地域社会の指導者が出現し、文化を媒介として地域統合や対外交渉を行ったことが確認された。

第Ⅰ部・第Ⅱ部の検討結果は、次のようにまとめられる。西南中国においては、秦・漢帝国による統治を経たのち、一世紀から三世紀にかけて、地区ごとにいくらか前後しつつ有力者が成長した。各地の有力者は、漢風文化を媒介として統治権力との接触や対抗を図るとともに、地域内では現地に根差した有力者として指導性を示した。その下では、名目としては

華北・江南などに拠点を置く政権の遠隔統治に従いつつ、現実には地域的に統合された社会が形成された。中国由来の文化に影響を受けながら、有力者の指導の下で自立的性格を帯びた地域社会が成立し、持続していたのである。一世紀から六世紀の西南中国における歴史展開とその特質はこのようなものであった。

以上の結果は、歴史的中国の多元性を考える際に、西南中国を特徴ある一つの地域とみることの必要を示す。これは、歴史的中国の空間的拡大やその内部構造を把握する上で新たな視角といえるだろう。また、西南中国における地域社会史の展開には、中国に対する接近・離脱という動きも観察された。このことは、六世紀以降の中国及び東アジア地域において雲南の南詔や北部ベトナムの大越国などの政治主体が出現した現象を広域史的に見直す手掛かりとなろう。本論文で検討した西南中国における歴史展開はこのような意義をもつと考えられる。